

第99回 全国大学獣医学関係代表者協議会記録

日 時 平成25年9月19日(木) 10:00~13:00

場 所 岐阜大学サテライトキャンパス 多目的講義室(大) [岐阜スカイウイング37 東棟4階]

出席者 (会 長) 伊藤茂男
(北海道大学) 稲葉 睦、昆 泰寛
(帯広畜産大学) 古岡秀文、猪熊 壽、橋本喜春
(岩手大学) 佐藤 繁、板垣 匡、山本欣郎
(東京大学) 九朗丸正道、尾崎 博、中山裕之、辻本 元、前多敬一郎、久和 茂、杉浦勝明
(東京農工大学) 下田 実、竹原一明、渡辺 元
(岐阜大学) 杉山 誠、石黒直隆、丸尾幸嗣、鈴木正嗣、海野年弘、北川 均
(鳥取大学) 村瀬敏之、竹内 崇、澁谷 泉、日笠喜朗
(山口大学) 岩田祐之、佐藤晃一、森本将弘、田浦保穂
(宮崎大学) 後藤義孝、大澤健司、池田正浩、
(鹿児島大学) 宮本 篤、三角一浩、川崎安亮
(大阪府立大学) 久保喜平、玉田尋通、山手丈至、笹井和美
(酪農学園大学) 林 正信、田村 豊、竹花一成、中出哲也、山下和人、遠藤大二
(北里大学) 高井伸二、宝達 勉、小山田敏文、渡辺清隆、佐藤久聡、岡野昇三
(日本大学) 河野英一、杉谷博士、中西照幸、丸山総一、上地正実、伊藤琢也
(麻布大学) 政岡俊夫、和田恭則、浅利昌男、村上 賢、土屋 亮
(日本獣医生命科学大学) 池本卯典、新井敏郎、河上栄一、小山秀一、尼崎 肇、田崎弘之、神谷新司、左向敏紀
(特別出席) 文部科学省 高等教育局専門教育課 内藤敏也
農林水産省 消費・安全局畜水産安全管理課獣医事班 荻窪恭明
社団法人日本獣医師会会長 藏内勇夫、主任(事業担当) 松岡 猛
公益財団法人大学基準協会大学評価・研究部 審査・評価系主幹 橋本孝志
(事務局) 東京大学:事務局長 (久和 茂)、総務 堀 正敏、広報 内田和幸
山口大学:広報 (佐藤晃一)
日本獣医生命科学大学:庶務・出納 中原 優、及川夏都美
以上 83名

開会に先立ち、文部科学省高等教育局専門教育課 内藤敏也課長、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課獣医事班 荻窪恭明課長、公益財団法人大学基準協会大学評価・研究部審査・評価系 橋本孝志主幹、社団法人日本獣医師会 藏内勇夫会長より来賓の挨拶の後、配布資料及び議事日程の確認を行い、議事に入った。

議 事

I. 報告事項

1. 国公立大学獣医学協議会報告

平成 25 年 3 月 27 日(水)に開催した国公立大学獣医学協議会における審議内容について、尾崎国公立大学獣医学協議会会長より、以下のとおり報告があった。

- ① 共同教育課程関係の予算配分として、北海道大学と帯広畜産大学、山口大学と鹿児島大学に、それぞれ増額及び増員等が認められた。これはこれまで進めてきた獣医学教育の改善にとって画期的なことである。その他の大学においても、遠隔講義システムや施設関係等の予算が認められたとの報告を受けている。
- ② 共用試験(CBT・OSCE)関係では、各大学とも大学便覧やシラバスに明記し、CBTの結果は、進級要件とはせずに参加型臨床実習への参加を許可する目的で利用することを確認した。また、CBTで使用するIT機器について、早急に方針を決定して欲しい旨の要望があった。
- ③ コアカリキュラムのアドバンス科目については、各大学ごとに対応することを確認した。
- ④ 各大学においてICTを活用した教材の開発が行われているが、できるだけ共用できるような形で進めることが必要との意見があった。
- ⑤ 第三者評価の導入・実施については、全国協議会及び大学基準協会における分野別第三者評価の検討が加速していることから、具体的な会合は開かずこれら協議内容を踏まえて、引き続き協議を深めていくことを承認した。

2. 私立獣医科大学協会協議会報告

平成 25 年 3 月 27 日(水)に開催した私立獣医科大学協会協議会及び平成 25 年 6 月 21 日(金)・22 日(土)に開催した私立獣医科大学協会総会における審議内容について、政岡私立獣医科大学協会協議会会長より、以下のとおり報告があった。

- ① 共用試験(CBT・OSCE)関係では、導入の必要性と費用応分については各大学とも認識しているところだが、予算確保の観点からも経費規模の概算を把握したく、獣医学共用試験委員長宛てに文書をもって依頼することとした。また、vetCBTシステム導入の課題として、各大学ではすでに様々なICT設備を有していることから、それらと連動可能なソフト・ハードを検討して欲しい旨の意見があった。
- ② 現在、獣医学教育の改善充実に係る取組みが進んでおり、獣医学教育に携わる全教員が一堂に会し検討できる教育に関する研究会の立ち上げが必要な時期が来ているとの意見に纏まった。開催場所としては日本獣医学会が最も適しているとの考えから、日本獣医師会理事長及び全国大学獣医学関係代表者協議会長宛てに獣医学教育分科会の立ち上げに関する要望書を提出することとした。
- ③ 産業動物獣医師及び公務員獣医師の確保が困難な現状の改善のために私立獣医科大学ができることとして、現在、地方枠入学試験の導入を様々な観点から検討している。
- ④ 私立大学として、それぞれの建学の精神、教育理念の下、自助努力により大学を運営・経営していくべきことは十分に理解しているが、獣医学教育の改善に伴う経費増加によりそろそろ体力の限界であることから、補助金等の配慮をあらゆる関係機関・団体に求めていくことを承認した。

II. 協議事項

1. 前回協議会記録(案)の確認について

伊藤会長より、第 98 回全国大学獣医学関係代表者協議会記録(平成 25 年 3 月 27 日開催)の確認を行い承認した。

2. 獣医学教育分科会の立ち上げについて

私立獣医科大学協会会長より要望のあった獣医学教育分科会の立ち上げについて、日本獣医学会理事長及び全国大学獣医学関係代表者協議会会長の間で事前検討した案の提示を受け審議の結果、原案どおり進めることを承認した。

〔概要〕

- ① 分科会という形態をとることには様々な規制があるため、日本獣医学会の中に委員会組織(例：教育改革委員会)を立ち上げる。
 - ② 日本獣医学会の委員会であることから諸経費は日本獣医学会が負担し、運営等については全国大学獣医学関係者協議会が取りまとめを行う。
 - ③ 現在までの教育改革委員会は終了・解散し、新たに各大学より2名の委員を選出して新委員会を発足する。
 - ④ 2名の委員のうち1名は各大学の教務委員会の委員を原則とし、審議内容を各大学の教務委員会における検討に反映する。
 - ⑤ 全国大学獣医学関係代表者協議会会長より、本日(9/19)午後開催される日本獣医学会理事会にて本案を提案する。
- (参考)近年は、北海道大学が獲得した特別教育研究経費(文部科学省)を予算財源として、日本獣医学会の中で教務改革委員会及び教育改革シンポジウムを展開していた(すでに補助金獲得期間は終了)。

3. 獣医学共用試験委員会報告

高井委員長より、平成25年5月30日(金)及び8月24日(土)に獣医学共用試験委員会を開催した旨の報告があり、委員会及び小委員会等の審議結果について担当委員長等より報告の後、審議・検討した。

1) 共用試験委員会(高井)

平成28年度より共用試験が円滑に実施ができるような実施環境の整備に向けて、平成25年度においては、文部科学省科学研究費補助金基盤Aを財源として、CBT及びOSCEソフト開発費、人件費・謝金、旅費等で1,180万円の予算で展開している。

2) 共用試験実施評価機構の設置について(杉浦)

獣医学系大学間の共用試験に関する事業を行うことを目的とした「一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構」を立ち上げるにあたり、定款案について説明があった。今後、公証人と協議の上、定款を決定していくため、修正・補記等が必要な場合には1か月以内に連絡が欲しい。

〔抜粋(定款概要を含む)〕

- ① 獣医学系大学間の共用試験実施評価機構は、一般社団法人として立ち上げ、近い将来に公益社団法人を目指すものとする。手続としては、定款を作成し公証人の認証を受けて登記することとなる。
- ② 本定款案は、昨年9月に医学系共用試験実施評価機構の定款を参考に作成したものを多方面から検討し大幅な修正を加えたものである。
- ③ 名称は、一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構とする。
- ④ 事務所は日本獣医生命科学大学からの申し出を受け、東京都武蔵野市(日本獣医生命科学大学の所在地)に置く。
- ⑤ 事務所の所在地で総会を開催するとしているが、他の場所でも開催できるように定款の内容を修正する予定である。
- ⑥ 獣医学系大学の共用試験に関する事業を行うことで、我が国の獣医療の向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。
- ⑦ 理事は獣医系大学16校から各1名と業務執行理事を併せて20名以内と想定している。
- ⑧ 定款案では会計監査人1名を置くとしているが、経費削減のため置かない方向で調整している。
- ⑨ 公告の方法としては、経費削減の観点から電子公告を予定している。
- ⑩ 設立時の役員及び社員としては、16大学の総長・学長等にお願いすることを予定している。

〔初年度予算額(案)〕

収入：2,835万円

(内訳)

- ・ 大会費 945 万円 [@35 万～80 万円 (30 万円+0.5 万円×学生数) 16 校]
- ・ 受験料 1,000 万円 [@1.8 万円 1,000 名]
- ・ 再受験料 90 万円 [@1.8 万円 90 名]

支出：2,835 万円

(内訳)

- ・ 事業費支出 822 万円 [旅費、謝金、試験監督手当 他]
- ・ 管理費支出 2,013 万円 [常勤事務員給(1 名)、非常勤理事給、賃借料、光熱水費、消耗品費、印刷製本費、通信費、備品費、試験用ソフトウェア運用費、雑費 他]

3) vetCBT 小委員会(杉山)

① 昨年度末に vetCBT 問題精選システムが完成した。説明会を開催した後、検証作業を兼ねて平成 25 年 3 月中旬より 7 月末までの約 4 か月間、各科目 100 題以下に精選する作業を実施した結果、約半分弱の作業が終了した。

- ・ 精選作業終了 46 科目(3,804 題)
- ・ 精選作業未了 4 科目(335 題)
- ・ 積み残し科目(100 題以上の科目)27 科目 → 精選作業未了問題：3,914 題

② 精選作業の担当者にアンケートを実施した結果は次のとおりである。

- ・ 負担時間は、約半数が 10 時間以内と回答
- ・ システムの操作性は、約 6 割が良好と回答
- ・ 負担度は、大きな負担とする者が多くいた(特に科目正副責任者)
- ・ 再度委員を引き受けても良いと回答した者は全体の 7 割
- ・ 自由記載欄には、難問が多い、コアカリ準拠テキストが整備されていないなど、今後改善していかなければならない意見が多く寄せられた。

③ 問題精選システムの改善、問題作成マニュアルの改訂、問題精選マニュアルの整備、担当委員の負担軽減などが今後の課題である。

④ 明日(9/20)担当者会議の開催、10～11 月に各大学での説明会、12 月に vetCBT 問題精選部会設置、12～1 月に問題作成、2～3 月に問題精選作業を予定している。

⑤ vetCBT 問題精選システム説明会での質問や意見に対する回答を「Q&A」にまとめ、公開している。

4) 獣医学 OSCE 準備小委員会(北川)

① OSCE の準備状況としては、すでにバージョン 10 となっているが、状況の変化等に対応して随時「実施要項」の改訂作業を行っている。また、OSCE を行うにあたり、vetOSCE に対応した「臨床獣医学実習における基本手技ガイド」を始めとする事前実習の手引き、また面接に対しては DVD を作成している。今年度中には完成させ、ホームページ等を利用して公開・配布していきたいと計画している。

② 多くの大学より要望のある OSCE の実施に係る経費を試算したが、不確定要素が多くあくまでも概算数値である。OSCE の実施環境が各大学で異なるため、共通的に必要な部分についてはできるだけ詳しい情報を提供するが、最終的には各大学で試算していただくことになる。特に動物シミュレーターの開発等を平成 26 年度の特別経費として申請しているが、採択にならなかった場合には購入費に開発費が乗るため金額が大きく変わることが推測される。

③ 22 日に開催する担当者会議にて更なる詳細について説明予定としている。

5) 広報委員会(渋谷)

広報委員会としては、共用試験(CBT・OSCE)の開催に向けて、引き続きホームページ等で情報を発信していく予定としている。

6) CBT 実施ソフトの開発状況について(遠藤)

- ① CBT システムについては、共用試験実施のために獣医学独自に開発することを決定し、現在開発を進めている。開発方針として、貴重な資産を保管することから、1に「安全性・堅牢性」、2に「信頼性」、3に「利便性・コスト」という優先順位で進めていきたい。本来であれば大手企業が利用しているデータセンターを利用することが望ましいが、経費面を考慮して公的支援を受けているデータセンターの利用を考えている。
- ② 信頼性という観点から、カンニングができないこと及び確実にテストが実施できることを踏まえ、試験回答システム、受験生登録・回答管理システム、問題送受・出題問題・受験生対応作成システムの3段階のシステム構築を進めている。
- ③ 現有資産を活用したいという要望を受け、検討しているところであるが、漏洩防止及びインターネットトラブルの回避という観点から、サーバーを学内に設置することを決定した。
- ④ 受験端末についてはいくつかの端末において使用が可能であることを確認できた。しかし、本格稼働の前には、すべての試験問題が正常表示されることを目視で確認するという膨大な作業が必要である。
- ⑤ 受験番号の仕様を決めることが今後の開発に必要な不可欠であることから、今後各大学に学籍番号の構成などを調査する予定である。
- ⑥ 今後の検討課題として、学内にサーバーを設置した場合、CBT 以外は休止状態にしていると CBT 本番で正常に稼働しない危険性が高いとの指摘を業者から受けている。

7) トライアル実施委員会(高井)

- ① 平成 25 年度のトライアルは、日獣大と麻布大を実施候補とし、出題システム・採点システム・問題の解析システム、試験環境などの検証を目的としている。本格的な問題解析については平成 26 年度の実施を予定している。
- ② OSCE トライアルは平成 26 年 2 月 15 日に実施予定、CBT トライアルの実施日についてはシステム開発状況を踏まえながら検討中である。

【審議事項】

(1) 合格基準点(CBT)について

共用試験委員会案として、CBT の合格基準点(=合格点)を 60 点とする旨の提案を受け審議の結果、原案どおり 60 点に到達した者を合格者とするのを承認した。

(2) CBT・OSCE の実施時期について

各大学に対して実施したアンケート結果を踏まえ、CBT 及び OSCE の実施時期に関する共用試験委員会案の提案を受け審議の結果、当面の間は原案どおり進めるよう調整を図ることを承認した。

4 年次 3 月第 1 土曜日：農工大、岐阜大、鳥取大、宮崎大、府立大、酪農大
(CBT のみ)岩手大、北里大、日獣大、日大

5 年次 6 月第 2 土曜日：北大、帯広大

5 年次 8 月第 3 土曜日：東大、麻布大

(OSCE のみ)岩手大、北里大、日獣大、日大

(3) 平成 27 年度の共用試験トライアル実施予算について

文部科学省科学研究費基盤研究 A(平成 24-26 年度)終了後の本稼働(平成 28 年度)までの 1 年間(平成 27 年度)に係るトライアル実施運転資金について、科研費に費用申請して確実に確保できる保証がないことなどから、16 大学が受益者負担する共用試験委員会案を受け審議の結果、原案どおり承認した。

(提案内容) 負担金額：総在籍学生数を 6 で除した 1 学年の平均学生数に 1 万円を掛けた金額

(4) 獣医学系大学間の共用試験実施評価機構の設置について

共用試験委員会からの提案を受け審議の結果、各大学の責任者(総長、学長)を会員とする社団法人の設立となるため、共用試験委員会案を全国大学獣医学関係代表者協議会の案として各大学に持ち帰り確認した上で次回(平成 26 年春)の本協議会で再審議することとした。

4. 獣医学共通テキスト委員会報告

橋本委員長より、講義科目 51 教科に関する平成 25 年 8 月末時点での獣医学共通テキストの編集に係る進捗状況の報告があった(刊行発売済み 16 教科、刊行日決定 33 教科、編集計画中 2 教科)。

[抜粋]

- ① 平成 25 年末若しくは本年度末(平成 26 年 3 月)までに、ほとんどの教科のテキストが刊行発売される予定となっている。
- ② 国内向けに作成したテキストではあるが、国際的な獣医学教育改革に連動した内容になっている。
- ③ 出口の質保証が強く求められていることから、今後はこのテキストを学生に紹介いただき、また教員もこのテキストに基づき、獣医学教育を展開していただきたい。
- ④ 獣医系大学として、教育内容を国民に対して説明することが必要であり、それが獣医師の信頼につながる。
- ⑤ すでに共用試験を実施している医学・歯学・薬学においては、このような共通テキストは作成できていない。
- ⑥ 本年 6 月に「獣医学概論」「獣医倫理・動物福祉学」「獣医法規」のテキストが刊行となっているが、これは獣医師に求められる職業倫理、獣医師が直面する社会問題など、以前(4 年制時代)は学んでいない内容であることから、現学生だけでなく広く学びに活用して欲しい。

5. コア・カリキュラム検討委員会報告

尾崎委員長より、現在コア・カリキュラムの小改訂に向けて調査を行っており、調査が終了次第、委員会を開催し改訂版を作成する予定である旨の報告があった。また、コア・カリキュラムは 5 年を目途に改定予定としていることから、半数程度の委員を交代させるなど、そろそろ準備することが必要となる。医学及び薬学のコア・カリキュラム検討には文部科学省より予算が付いていることから、是非獣医学に関しても考慮・検討いただきたい。

6. 動物診療施設小委員会報告

辻本会長(全国大学動物診療施設運営協議会)より、平成 25 年 9 月 22 日(日)に全国大学動物診療施設事務担当者会議及び全国大学動物診療施設運営協議会を開催予定である旨の報告があり、担当者会議及び運営協議会の議事予定(報告・協議)等について以下のとおり報告があった。

[全国大学動物診療施設事務担当者会議]

- ① 各大学の動物診療施設が参加型臨床実習を行うに不十分であるとの懸念を受け、建物の現状及び今後の拡充計画等について事務担当者より報告を受ける。
- ② 電子カルテシステムを導入している動物診療施設が増えているが、画像電子データ等を参加型臨床実習で使用することから、その運用等について事務担当者より報告を受ける。

[全国大学動物診療施設運営協議会]

- ① 全国 16 大学動物診療施設の教員及び事務担当者の計 73 名が参加予定であり、各動物診療施設より、運営状況(構成人員、診療頭数及び収入額、運営予算、研究医療費及びこれに要した診療費、新設設備、購入備品等)について報告を受ける。
- ② 平成 25 年 5 月に竣工した北海道大学動物医療センターの診療施設の概要について説明を受けた後、新施設で展開する参加型臨床実習の概要について報告を受ける。
- ③ 全国 16 大学動物診療施設における診療収入額及び予算額(平成 23~25 年度)について、各動物診療施設より報告を受ける。

伊藤会長より動物診療施設小委員会に対し、到達目標を含めた現実的かつ統一的な参加型臨床実習のガイドラインの作成について依頼があり、辻本会長より小委員会で検討し、2~3 年後に展開している参加型臨床実習のレベルを想定したガイドラインを取りまとめる旨の返答があった。

7. 第三者評価小委員会報告

① 政岡委員長より、獣医学教育の改善・充実方針に伴う分野別第三者評価導入及び実施に係る経緯について報告があった。

- ・全国大学獣医学関係代表者協議会(以下「全獣協」という。)は、平成23年9月に「新しい獣医学教育の方向性と獣医学教育者の責務に関する声明」を社会に公表した。
- ・全獣協としては獣医師会との調整の下、獣医学分野における第三者評価機関を大学基準協会とすることを承認した。
- ・現在、大学基準協会に獣医学教育評価検討委員会が設置され検討している。

② 中山獣医学教育評価検討委員会委員長より、当該委員会の活動実績及び今後の予定の報告の後、評価の考え方及び概算経費について以下のとおり説明があった。

[活動実績及び今後の予定]

- ・平成25年4月17日に第1回獣医学教育評価検討委員会を開催
 - ・平成25年5月15日に第2回獣医学教育評価検討委員会を開催
 - ・平成25年6月28日に第3回獣医学教育評価検討委員会を開催
 - ・平成25年6月28日に第1回獣医学教育評価検討委員会WGを開催
 - ・平成25年9月25日に第2回獣医学教育評価検討委員会WGを開催予定
- 1) 現在WGで評価基準の案を作成中である。
 - 2) 今後、月に1回のペースで獣医学教育評価検討委員会又はWGを開催し、3月下旬の全獣協では評価基準の素案を提示したい。
 - 3) 来年4月以降にパブリックコメントを募集した後、大学基準協会の常任委員会及び理事会を経て評価基準を完成させ、平成27年度より評価を開始する予定である。

[評価の考え方]

- ・教育のポリシー(アドミッション・カリキュラム・ディプロマ)が明記され、これを学生と教員が共有し、認識しているか。
- ・教育のポリシーが社会に周知されているか。
- ・教育のポリシーが機能的に実行されているか。
- ・教育のポリシーを実行するための人員、設備、システムが確保されているか。
- ・アウトカム(卒業生の活躍)の評価が行われているか。
- ・PDCA(Plan-Do-Check-Act) cycleが有効に機能しているか。
- ・教育評価システムの客観性が担保されているか。

[概算経費(費用負担)]

- ・評価の内容によって大きな幅があるため、一律にどの程度とは表しづらい。
- ・7年間に1度評価を受けると想定した場合、安く見積もって350万~400万円、高く見積もると600~800万円になると推測される。

③ 尾崎国公立獣医学協議会会長より、国公立獣医学協議会の分野別第三者評価に対する考え方(案)について以下のとおり報告があった。

- ・第三者評価は、獣医学教育改善運動の集大成である。
- ・第三者評価は、教育研究体制の不断の改善を社会的理解の下で実現することを目的とした教育の質向上に資する制度でなければならない。
- ・専門職大学院で実施している機関別認証評価とは設置根拠やその趣旨が明確に異なるため、同じ観点・方法で評価を実施することは不適切であり、獣医学教育の専門性に特化した特徴的な評価が必要である。
- ・薬学教育評価機構による評価は参考にするべきであるが、そのまま持ち込むことは不適切であり、新たな評価システムとして構築していくことが望まれる。
- ・基準作成に当たっては、あいまいな表現を避け数値で標記すること、評価も数量化すること、必要な教員数を明示すること、基礎的教育評価と特徴的教育評価を分けて評価することなどが望まれる。

第三者評価の評価基準を評価を受ける側である我々が検討する内容ではない、また評価をコントロールするのは我々以外の第三者であるべきとの意見を受け審議の結果、お手盛りではないことが重要であるが、獣医学に特化した専門分野は完全な第三者だけでは難しく、ピアレビューを記載するのは関係者に近い者であってもその後大学基準協会の審査委員会にて審査するという流れが第三者評価として機能するか否かを含め、引き続き大学基準協会にて検討いただくことにした。

8. 全国共同実習事業報告

「平成 25 年度大学改革推進等補助金 口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」に関して、北川教授（岐阜大学）より産業動物診療分野における全国的臨床実習システムの構築に係る夏期臨床実習受入状況及び産業動物臨床実習モデルプログラム試行報告書、また、杉浦教授（東京大学）より感染症・公衆衛生分野実施状況について報告があった。

本年度をもって「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」が終了することを受け、新規事業として、文部科学省より財務省に予算要求をしている「公共獣医事に係る臨床教育の実施体制構築事業」について、内藤課長（文部科学省高等教育局専門教育課）より事業の目的・校か、取組の概要等の説明があった。

9. 広報委員会報告

佐藤教授（山口大学）より、広報委員会としては、獣医学共通テキストの情報を随時更新して提供するなど各種情報の提供に努めている旨、また、第三者評価について現在大学基準協会（委員会・WG）などでの検討が進められていることから、時期を見て情報を発信していく予定である旨の報告があった。

10. その他

尾崎教授（東京大学）より、日本学術会議の大型研究マスタープラン（研究計画の策定）への申請研究計画について報告があった。

〔抜粋〕

- ① 日本学術会議では 3 年間に 1 度大型研究マスタープランを作成し、政府に提言している。
- ② 今回(2014 年度)の大型研究マスタープランは約 200 の課題を採択、さらにその中の 25 課題を重点項目とする予定である。
- ③ 農学生命科学分野研究計画として、「動物界 One Health: アグリサイエンス研究拠点(総額 180 億円: 10 カ年)」を申請した。
- ④ 200 の課題に採択され、さらに 25 の重点項目を決定するヒアリング対象(66 課題)となり、9 月 22 日(日)にヒアリングが行われる予定である。

11. その他 2

- ① 政岡教授(麻布大学)より、2015 年 6 月 21 日(日)～24 日(水)に国立京都国際会館で開催を予定している「第 7 回国際新興・再興豚病学会」のお知らせがあった。
- ② 丸尾教授(岐阜大学)より、第 156 回日本獣医学会学術集会で開催予定である市民公開講座(「男女共同参画を推進する」)の席に若干の余裕があるので会員や学生に参加して欲しい旨のお知らせがあった。
- ③ 中山教授(東京大学)より、獣医師国家試験出題基準検討委員会において検討中である出題基準の具体的見直し(案)等について報告があった。

以上